



第17号

編集・発行
八幡地区社会福祉協議会

倉敷市柏島東憩の家
倉敷市玉島柏島1532-23
☎522-1217

平成三十年度

「八幡地区社会福祉協議会」

総会開催



平成三十年五月二十日(日)柏島東憩の家で、平成三十年度「八幡地区社会福祉協議会」総会が開催されました。

協議会の運営に協力していただいている理事、評議員、顧問の方々が参加され、事務局より提案された、平成二十九年度の事業報告・決算報告及び平成三十年度の事業計画及び予算案について審議されました。

議案は、提案どおり承認され総会は終了いたしました。



平成30年度 事業メニュー

事業名	日時	場所
福祉施設との交流会	平成30年6月13日(水)	シーサイドリビング 勇崎
3世代交流地区運動会	平成30年10月28日(日)	玉島みなと公園(中止いたしました)
3世代交流もちつき大会	平成30年12月2日(日)	柏島東憩の家
独居高齢者自宅訪問	平成31年2月6日(水)	(準備) 柏島東憩の家
ふるさと歩行ラリー	平成31年3月17日(日)	玉島新町～羽黒神社

投稿

▽「祖母の引き出し」

「降る雪や明治は遠くなりけり」

昭和の初めに、中村草田男が詠んだ句である。平成が終わろうとしている今、この句と同様に、昭和がずいぶん遠くなったような気がする。その昭和という時代を思うとき、脳裏に浮かぶのは祖母のことである。私の祖母は、明治の末に生まれ、大正、昭和、平成と生きた。他界してもうすぐ二十年になる。

祖母の葬儀が終わって部屋を片づけていると、箆の引き出しの底から、大切にしまわれた着物の包みが出てきたという。古びたたとう紙の中にあつたのは、男物の大島紬の一揃え。まだしつけ糸がついたままで、一度も袖を通したことがないように見えるその一対は、おそらくは、祖母の夫への心尽くし。戦地に向かった夫が、いつか帰って来る日のために、と用意されたものに違いなかった。一針一針、夫の無事を祈りながら縫ったであろう、若き日の祖母の姿が目に見えぬ。

しかし、そんな祈りも空しく、祖父は二度と帰って来ることはなかった。そして、用意された着物は、祖母の引き出しから出されることなく、半世紀を超える時が過ぎ去ったのだらう。一家の働き手を失い、幼い二人の子供を抱えた暮らした、けして楽ではなかったはずである。それでも、夫の着物を、手放すことも仕立て直すこともしなかった祖母の気持ちや、せつなくともしなかった祖母の気持ちを、この着物を目にするたび、祖母の胸に浮かんだのは、いつたいたいような思いだったのだろうか。

祖父の乗った船がフィリピン沖で海に沈んだのは、終戦間近の昭和二十年四月のことである。届けられた骨箱には、小石が一つ入っていたという。石ころ一つで大切な夫の死を信じられるはずもなく、祖母は、「どこかで生きています。いつか自分たちの所へ帰って来てくれる。」そんなふうには信じ続けていたのではないかと、思えてならない。「いつか、きつと…」そう思いながら過ごしてきた祖母の半生を、平和な時代の中で今、改めて思いやる。

箆の引き出しに封印された、祖母のせつなく哀しい思い。昭和という時代が遠く過ぎ去る

うとしている今だからこそ、つらい時代をじつと耐えて、たくましく生きてきた祖母たちの、せつない思いを忘れてはならないと思う。

「おばあちゃん、おじいちゃんは何となくくれた？よう頑張ってきたとほめてくれた？ずいぶん長いことかかったけど、やっと、あの着物を着てもらえるなあ。」

心の中でそうつぶやいた時、若々しい祖父の写真と並ぶ年老いた祖母の顔が、写真の中で恥ずかしそうに微笑んだように思えた。(ともこ

▽「気が付けば二十五年」

いつの間にか、消防団に入って二十五年が経っていました。振り返ると建物に林野火災、台風などによる風水害、人探しなど様々な現場に出動し、少しは人様のお役に立っていたのではないかと感じてますが、時に人と話をする中で、「大変」、「偉い」、「誰にでも出来ん」などの言葉を頂くと恐縮してしまいます。確かに、「大変だった」と感じることもありますが、それはどの「大変さ」はほとんど無く、その気さくあれば誰でも出来る活動です。出動も平均すると年に二回程度、全く無かった年もありました。また、出動の要請が出ても状況により駆け付けられないことも多くありました。が、「出来る範囲で皆が協力して」のもと、無理や大きな負担無くやり甲斐を感じながら続けて来られたと感じています。

それよりも活動以外のメリットの方が多かった様に思います。しかし、そもそも自分から好んで入団した訳ではありません。この地で生まれ育ち無事社会へ出て数年経った頃、入団のお誘いがありました。その前から「地域のことで何か役が回って来るかな？」と考え覚悟もして居りましたので、内心は面倒と感じながらも、あっさり引き受けさせて頂きました。そして一年ほど経つと、「なかなか居心地の好い所」で、時には楽しいこともありましたし、それ以上に「身近に色々な方が居て活動活躍していた」ことに新鮮な驚きを受けました。「知らないこと」を知らず、「分かったつもり」になつていた二十代後半の私は、身近なことも「まだ知らないことだらけ」だったことを思い知らされ、それ以降、仲間の先輩や後輩と接しながら、情報交換や刺激を受けつつ多くを学ばせていただきました。実際の生活の中でも、仕事の関係や余暇、地域の慣習や衣食住様々な面に於いて相談し、助けていただいたり、どっぴりとお世

話になって来ました。それも先輩方だけでなく、後から入られた若い方々にも同じく、まさに先ず団の中で「助け合い」です。

消防団に入り、その活動よりもこの出会いとつながりの方が、私にとつては大きな意味あることであつたとありがたく感じております。

こうして過ごさせてもらいながら来たわけですが、五十歳も過ぎそろそろ定年も見据えての時期となりました。今後は活動の足を引く張らぬことに十分注意し、何より感謝の気持ちを失わず、もうしばらく役目を果たさせていただけたら幸いと考えてます。

最後に、この消防団は地区活動として「思われているほどの負担はなく、価値多し」です。気になっていただけた方は、楽な気持ちで入団をご検討下されたらと難い。尚、定員がありますので悪しからず。

中藤 賢二

▽「犬の散歩にて」

定年退職して気まま暮らしも一年。そんな隠居生活の中、唯一私の日課が「犬の散歩」である。毎日、朝と夕に強情な愛犬「クウ」(柴雑種・八歳雌)を連れての散歩。自ら進んで駆け出し、行きたくない場所には腰を屈めて屈強に抵抗する等、常にリードを引っ張り回されて下の世話を任される。私が連れて行くと云うよりは、辛抱強く御犬様の御供をさせられる世話役降りというのが実態であろう。

退職迄は休日や気が向いた時等、妻に急かさねながら洪々散歩に連れ出す程度の努めであつたのだが、それまで面倒を見ていた妻が、最近足が痛いや忙しいと愚痴を零し始めだし、居候の身分としては見かねて「散歩」役を引き受けずには居られない状況で私の日課に定まった。冬の寒い朝や夏の暑い日、雨降りや台風の合間を見計らつて等、久々に宮沢賢二の詩を思い浮かべながら毎日一、二時間程を付き合っている。最初の内は近所の方に出会つても、日頃接する機会が殆ど無い為に話しも出ず、心に垣根を作つてすれ違つていたのだが、互いがいつも出会う様になり、自然と心が和めて会話が進む様にもなつてきた。

中でも通学路で出くわす園児や小中学生の子供らが、「おはようございます」と挨拶してくれる様になったのは非常に気持ちが良い。私は大人目線で偉そうに「おはよう」とだけ返答するのだが、立場は逆なのかも知れない。しっかりと

と挨拶が出来ると子供に感心させられるし、その子らの家庭内の円満さが伺い知れて喜ばしい。反面、通学路に放置された生活ごみや犬の糞等が多く、子供達に叱られそう地域で大人のモラルや躰の無さが嘆かわしいのも事実である。

それでも散歩を介して接した「クウ」との一年間、子育てを妻に任せきりだった私にとつては、まるで子育てをする母親の様な気持ちで付き合ひ、今迄以上に「クウ」ちゃんに愛着を感じている。更に日々の散歩は自分自身の健康維持にも繋がっている様で有り難い。たかが散歩だけの一年だったが、その七分も一人で面倒



を見てきた妻の苦勞を改めて知り、感謝したい。また、残り七年から八年？知れないが、今後もしも遺漏無きように「散歩」世話役係りを務めて行きたいと思う。

城戸 信公

▽「光」

倉敷市立玉島西中学校校長 平櫛 和男
無言になり 原爆資料館を出できたる 生徒を夏の光に放つ

平成最後の「歌会始の儀」が一月十六日、皇居・宮殿で催された。今回のお題は「光」。両陛下、皇族方、召人、選者の皆様が続いて全国から選ばれた一般人選者十名の歌が披露された。この作品もその一つ。本校国語科教諭、重藤洋子先生の詠歌である。

重藤先生は玉島西中学校に赴任して二年目、教職三十五年のベテラン先生である。大学で国文学を専攻し、卒論のテーマは「源氏物語」。日本語の美しさや味わい深い表現への興味次第に三十一文字の世界に向かわせたという。この二十年ほどは先輩教師らに誘われ加わつた短歌結社「龍」で創作を続けてきた、本校学区在住の「玉島の人」である。

本作は、昨年八月末、先生が担任する本校二年生の生徒百二十名と訪れた広島平和記念資料館で生まれた。西日本豪雨の影響で延期を重ね、ようやく実現した平和学習。戦争の悲惨さと平和の実現について思いを深める生徒の真摯な姿に触れ、自然な気持ちで湧き上がった歌とのことである。

「夏の光に放つ」が鮮烈だ。胸が押し潰されそ

うな衝撃を受けて言葉を失い、暗い過去の歴史に沈む生徒達を、未来創出の可能性と希望に満ちた光の中に導き、力強く送り出す。この歌を私はそう解釈した。そして先生の眼差しの中に、次代へのバトンを確かに受け継ぐ生徒達への慈愛と信頼の情を感じ取った。

十一月には、この重藤先生の協力のもと、第二学年古典学習「平家物語」の発展教材として「源平水島合戦」を全クラスに授業した。玉島の地に根差し、我が国の文化や伝統を豊かに継承する、そんな西中教師団でありたい。

▽「西日本豪雨災害」

小田川の決壊により真備地区で、五十一名の死者と多くの住宅が浸水、多くの人が仮住まいを余儀なくされている。弟世帯も真備に住んでいたが、テレビニュースで放映されなかったので大丈夫と思っていた。三日後に「二階まで浸水した。」といって実家に避難して来た。家財は全部捨てるといふことになり、真夏の炎天下、泥と汗まみれになり約一ヶ月間片付けに追われた。

どうなるかと思った片付けも、多くのボランティアの方が手伝ってくれ、本当に助かった。感謝の気持ちで一杯でした。写真・人形等わずかな思い出の品を実家庭先に並べていたが今はない。全て廃棄したのだろう。家族間でも意見が分かれ、将来どうするかまだ決まっていないうだ。

小田川の決壊は過去に何度か経験していたように、同じような高さまで浸水したそうである。また同じ災害は起こるだろうと思う。弟家族は「命が助かっただけでもよかった。しょうがないことだ。どうしようもない。」と。月日がたつと忘れ、いつかまた同じことが起こるだろうと思う。真備地内も、復興に向け色々なイベントを行い、徐々に元を取り戻している。約半年過ぎたが、私の弟家族も、「起こったことはどうすることもできない。生活していくしか仕方がない。」と言っている。実家になし、元気に働きに出る。愚痴もこぼさず淡々といつもの生活をしている。声をかけることはできない。真備住民の多くがこうした前向きな姿勢で臨んでいると信じている。何%かは帰ってこないかもしれないが、多くの人はふるさと復興に希望を持ち頑張っている。人々の生きていくことへの力強い生命力に感心するばかりである。がんばれ真備町、応援しよう。(T・S)

三世交代もちつき大会

平成三十年十二月二日(日) 柏島東郷の家広場で、高齢者、親、子らが集い、「三世交代もちつき大会」が行われました。

当日は十二月でも暖かく、風もあまりなく、絶好のコンディションで多くの人が参加してもらいました。

前日には、蒸し器、手洗いタンク、石臼の準備をし、当日は、二つの石臼で「ぜんざい」「しょう油」「きな粉」の三種類を作り、みなさんに喜んで食べていただきました。

その後、子どもたちとビンゴゲームをし、無事に終わることができました。準備から後片付けまでお手伝いをいただいた皆様、ありがとうございました。



ふるさと歩行ラリー

平成三十年三月十八日(日) 高齢者、親子が集い「ふるさと歩行ラリー」が行われ、多くの参加者で盛り上がりました。

柏島東郷の家を九時すぎに出発して、水玉ブリッジラインを通り、戸島神社へ行き、屋には出発場所へ帰る、約5kmのコースで行いました。

参加者の方々は、「足は少し痛いですが、友達・家族と楽しく会話しながらゆっくり歩いて良かった」と言った声をいただきました。最近では、ご夫婦、四、五人のグループで歩かれている場面をよくみかけますが、是非この「ふるさと歩行ラリー」に参加していただけたらありがたいです。朝から、お手伝いをいただいた皆様ありがとうございました。



福祉施設との交流会

平成三十年六月十三日(水) シーサイドリビング勇崎で利用者とフラワーアレンジメントをしてお互いの作品を発表いたしました。その後、みんなでカラオケをし、なつかしい昭和の歌謡曲「君恋し」なども利用者が歌われ、大いに楽しみました。

のぞみ会



のぞみ会は、六十五歳以上の一人暮らしの人が入会できます。会費は年額千円です。開催は二か月に一回です。内容は健康体操・ビンゴゲーム・手品・病气予防対策等です。

玉島南小学校 読み聞かせ活動

「子どもたちに絵本の世界を！」

玉島南小学校では、一年生と二年生の四クラスで、毎月第二木曜日の朝、絵本の読み聞かせの時間をもうけています。

以前はPTAが中心となつて行つていましたが、七年前から有志の方々によって活動を引き継ぎました。最初は四人からのスタートでした。今は十三人のボランティアが、毎月予定を調整しながら活動しています。

「どんな絵本にしようかな？」

絵本は図書館で借りたものや、自分の子どもに読んでいたものを使っています。子どもたちが喜ぶ様子を想像しながら選ぶと、こちらもワクワクしてきます。

季節を感じられる絵本、思わず笑ってしまうような楽しい絵本、昔から伝わる物語を描いた絵本…。いろんな絵本があり、でもどんな絵本を読んでも、子どもたちはとても集中して聞いています。時には笑ったり、「えー!!」と驚いたり…本当はきつと、いっぱい気付いたことを話したいけれど、おしゃべりせずに静かに聞いてくれます。

どの子どももキラキラしています。絵本は、子どもたちの豊かな心を育ててくれるようです。

「読み聞かせボランティア、募集しています」

今が低学年の四クラスにしか「読み聞かせ」の時間はありませんが、もっとたくさんさんのクラスでできたら、と考えています。そのためには「読み手」になってくださるボランティアの方に、多く集まっていただけなくてはなりません。ぜひ興味のある方はご連絡ください。お待ちしております。

【お問合わせ先】

080-4262-1117

平松



みんなで取り組む健康づくり

八幡愛育委員会

「八幡愛育委員会がミニ健康展をするらしいけど知ってる?」「ミニ健康展でどんなことをするの?」「健康チェックやお昼には試食会もあるらしいよー。」

八幡愛育委員会では、現在七十二名の八幡地区愛育委員の皆様のご協力により、赤ちゃんから高齢者まで幅広い世代への声掛けや見守りを通し、健康で住みよい地域づくりを目指して日々活動しています。毎年恒例の「ミニ健康展」を昨年十月十六日玉島西公民館において「みんなで取り組む健康づくり」健康チェックで生活習慣予防をテーマに開催しました。

今回のミニ健康展では、倉敷市に新たに導入された健康測定機器も使って参加者の皆様に次のような測定体験をしていただきました。

血流測定(血液の循環について測定することで、動脈硬化の度合いがわかります)・体組成測定(体脂肪率や筋肉率を測定することで、体を構成する組成成分のバランスがわかります)・骨密度測定(かかとの骨の密度を測定することで、骨の強さがわかります)・脳年齢測定(簡単な入力で脳年齢を測定します)・その他、肺活量測定・血圧測定・おもしろ健康クイズや栄養士による栄養相談、テイクアウトや玉島南高齢者支援センターの方との相談コーナーなど。そして、お昼には八幡栄養改善協議会の協力で生活習慣病予防レシピによる試食会や、栄養士の井川弘江先生から当日参加者への個別栄養相談と、生活習慣病に関するミニ講義では、知っているようで知らない食生活のポイントなどを教えていただきました。参加者の方からは、「自分の体のことがよくわかって良かった。」「体の中が丸見えだなとびっくりしました。」「自分の測定結果にショックを受けて、気になるので早速健診に行こうと思います。」「体組成計測定で色々なことがわかってとても良かったです。」「試食も美味しかったです。」「との感想。

最後に運動指導員の中山和佳子先生に、「日常生活の中でも椅子に座って気軽にできる健康体操一時間指導していただきます。」「体操も難しくなく、気持ち良かったです。」「喜んでいただきます。ミニ健康展を実施予定です。ぜひ参加して健康づくりのきっかけにしてくださいと思います。」

今後とも愛育委員の皆様方とともに、住み慣れた地域で生きがいを感じながら元気で暮らしていけるよう健康づくりに取り組みでまいりたいと思いますので、八幡地区の皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

「命を守るために」住宅用火災警報器を設置しましょう!

冬本番になり、本格的に寒くなってきました。冬は空気が乾燥しているため、火災が起こりやすくなります。

倉敷市消防局管内では平成三十年中に火災で十二名の方が亡くなられ、十八名の方が負傷されています。(平成三十年十二月十六日現在)

火災で犠牲になった方は、ほとんどの場合煙を吸って亡くなっています。「火事になって逃げたから大丈夫」と思われていませんか?想像してみてください。深夜二時、あなたは寝室でぐっすりとお眠っています。居間の電源コードが家具の下敷きになっており、そこから電気火花による火災が発生しました。炎はカーテンを燃やしながらかつて天井まで達し、有毒な一酸化炭素を含んだ煙があなたの眠っている部屋に迫っています。

あなたは、この状況で煙を吸わずに逃げることはできますか?ひとつだけ方法があるとすれば、それは住宅用火災警報器を設置することです。住宅用火災警報器があれば、わずかな煙でも警報音が鳴り、いち早く火災を知らせてくれます。住宅用火災警報器は、このような就寝中の火災からの逃げ遅れを防ぐために、法律により全ての住宅に設置が義務付けられました。必要な場所は全ての寝室です。二階に寝室があるお宅は階段部分にも必要です。

住宅用火災警報器には熱を感知するタイプと煙を感知するタイプがありますが、必ず煙を感知するタイプを取付けてください。熱を感知するものは台所に設置します。ただ、倉敷市は台所への設置は義務ではありません。

聴覚に障がいを持たれている方は音だけではなく、光でも知らせるものが良いでしょう。他にも一つの警報器が作動すると、他の部屋の警報器も作動させ、家中の人に一齐に知らせる連動タイプのももがあります。電源が乾電池タイプのもものは、電池寿命が十年なので注意が必要です。設置から十年を経過したものは、本体の部品も老朽化しているため、本体ごと取り替えることをお勧めします。

玉島消防署では消防職員が皆様のお宅を訪問し、設置されているか調査をしています。ご協力をお願いします。(消防職員は身分証明書を携帯しています)ご不明な点は、玉島消防署・予防係までお問い合わせ、ご相談ください。

ユーチューブではローカルヒーロー「JC戦士タマシマン」が動画でお知らせしています。「タマシマン」で検索してみてくださいね。

※お問い合わせ 玉島消防署 TEL086-2135115

民生委員・児童委員及び主任児童委員の地区担当 (敬称略)

穴吹征男	柏台5丁目
森分宏幸	船宮・金谷・福井・八幡・原団地
出宮加代子	榎山・奥谷・寺前1・寺前2・畑深底・蔵戸・大井・辻谷・南陽台新南谷・南谷ハイツ 他
穴貝成一	金頭地区・桃山団地・原上団地
原田祥一郎	羽口・南谷・山之端・奥谷市営団地
白神浩三	押山・宮本町・ひまわり団地
中藤知之	外浜・宝亀
宮原美貴子	西浦
西山圭子	玉島南小学校区

西山圭子さんは主任児童委員です。ほかの方々は民生委員・児童委員です。

「玉島南高齢者支援センター」528-3266

倉敷市では、高齢者が可能な限り地域において自立した日常生活を送れるよう、介護だけでなく、保健・医療、福祉に関する総合的な支援を行う拠点として、高齢者支援センターを設置しています。八幡地区は玉島南高齢者支援センターが担当センターとなります。

「日本はいいぞ!」 倉敷市立玉島南小学校 校長 藤井 浩

平成十二年四月から三年間、英国のロンドン日本人学校に教諭として勤務していました。日本人学校は海外で暮らしている日本人の児童・生徒のために日本と同等の教育を行う在外教育施設です。そのため、日本と同じ教科書や資料を使って授業を進めます。しかし、生活科や理科の自然を扱う授業は困難を極めました。そもそも、ロンドンで昆虫を目にするのはそれほど多くなく、昆虫を捕まえてそれを育てるなんてとんでもありません。それでも子どもたちに理解できるように指導する必要がありました。モンシロチョウの代わりで購入したガを飼育するなどの工夫をしていました。日本では春から秋にかけて多様な昆虫を目にするのができます。(歓迎しない昆虫もいますが)セミのやかましい声やコオロギなどの合唱を懐かしく思っていました。

赴任前の研修で「海外は日本ほど清潔ではありません。狂犬病になったら確実に死にます。リスなどの小動物に近寄らないように」

と医師が言っていました。ロンドンの隣家(英国人)では、庭に訪れるリスやキツネに餌をやっていました。小動物は好きなのですが、「狂犬病」という言葉が常に頭にあり、我が家の庭は、リスやキツネにとって隣家の庭への単なる通り道でした。

日本人学校でも校外学習があります。しかし、道を一本隔てた公園に行くだけでも安全対策のためには児童二、三人に対して一人の大人の付き添いが必要になります。その都度保護者にヘルプをお願いしていました。また、赴任二年目には学校近くでテロが起こるとの情報が入り、全校で体育館に避難したこともあり、米国で大きなテロがあった翌年、帰国時のヒースロー空港では銃を持った多くの兵士に出会いました。

自然に恵まれ(夏の蒸し暑さはいやですが)、清潔で安全で平和な日本はいいぞ、岡山はいいぞ、倉敷はいいぞ、と思いながら今も暮らしています。